



茶況

27日

藤枝市の茶生産者らでつくる「藤枝有機碾茶(てんぢや)生産拡大研究会」(向島和詞会長)は26日、抹茶原料の碾茶向けの茶葉生産に必要な茶樹の被覆の技術実証試験を、同会関係者が管理する静岡市清水区の茶園で行つた。

茶樹の被覆資材の展開と巻き取り作業について、乗用型管理機に設置した専用アタッチメントの作業を検証する関係者26日、静岡市清水区

専用型管理機に取り付けた専用アタッチメントと、手作業との作業効率の差を検証した。県、藤枝市、JAグループ、機械メーカーの関係者らが見守る中、長さ50㍍、幅2㍍、90%～85%遮光の一般的な被覆資材を茶樹に覆いかぶせ、2㍍間隔でピンチで枝に固定する作業時間をそれぞれ計測し、比較した。

手作業、乗用型いずれも2人で作業した結果、乗用型の方が展開や巻き取りにかかる時間は短いものの、ピンチの固定や、置などの時間を含むと、乗用型がわずかに早いと

乗用型は機械操作と補助含め3人で作業する方が効率的とみられ、人件費と効率化の程度の比較に課題を残した。向島会長は「機械を使いこなすには訓練が必要。農家の体力的な負担軽減にはなる」と指摘した。

藤枝 茶商は年末のあいさつ回りに忙しい。
島田、金谷、川根 川根本町のフォーレなかかわね茶茗館で、高級茶の体験席が人気を集めている。
榛原、相良 牧之原市では1月、予選会を突破した小学生による闘茶、茶クイズの選手権が開かれる。
掛川、小笠 茶商は年賀用商品の発送作業を進めている。
袋井、森 直売所は年末年始の帰省客に売り込みを図る。

乗用機と手作業、効率比較 碾茶被覆

の結果になつた。